

Harvard School of Public Health and Boston University School of Public Health in Nakijin



北部地区医師会 副会長 石川 清和

それは1通のメールから始まった。仲介者がいたとはいえ、世界トップクラスのハーバード大、ボストン大学の公衆大学院生が今帰仁に来るなんて、「半信半疑」で私のJapan Tripは始まった。そう、「ただ単に空間を移動することだけが旅でなく、非日常との出会いが旅である」とするなら、まさしく「旅」の始まりであった。

彼らの今年の目的が「健康長寿の秘訣」であり、その要因としていろんなことを指摘していたので、できるだけ多くの体験をしてもらおうと考えていた。例年は30人前後であったが、沖縄の魅力のせい、最終的には世界9カ国の外国人学生45名、日本人留学生8名の大きなツアーとなった。

3月22日～28日の1週間は天気あまりよくなかったが、25日、26日だけは天気に恵まれ絶好のField work日和となった。わずか2日間ではあったが、模合い見学、潮干狩り、御獄めぐり、アグー豚舎の見学、野菜畑、調理実習、保健師の活動、そして高齢者との触れ合いといろんな体験を組み込んだタイトなスケジュールを無事にこなすことが出来た。

初日は模合いの見学で、資金集めの一口30万円の模合いと、20代から60代までが参加する、バドミントンクラブの交流模合いを見学した。日本人留学生の通訳のもとで、模合いの特殊性を理解してもらえた。コロンビアにも同様

のシステムがあると参加者のひとりが話していた。バドミントンの模合いは練習後夜10時から始まる夜型社会沖縄ならではの模合いであったが、世代間の交流を感じていたようである。

翌26日は6つのグループに分かれいろんな体験してもらった。昼食を中央公民館でお年寄りと摂りながら、健康長寿についての一生懸命聞き取りしていた。その日は天気に恵まれ快晴になったため、急遽一部予定を変更し海水浴に行った。ボストンの海を見慣れた彼らにとって、色鮮やかな沖縄の海は忘れられない思い出になった様である。発表会でも一番拍手を浴びていたのは、水着姿で海水浴をし、ポーズをとっていたスライドであった。

短い時間ではあったが、彼らが健康長寿の要因とした魚、野菜、海藻を中心とした食生活、生活習慣、仏教や文化など伝統的な考え方、環境等を体験してもらえたと思う。

懇親会は商工会の女性部の持ち込んだご馳走やベジタリアン用の寿司などを囲みながら、子供たちを含めた民謡クラブの三味線を幕開けに、94歳の渡名喜長栄氏の三味線、踊り、最後はほとんどのジャパントリップのメンバーがカチャーシーに参加してお開きとなった。

多くの村民、北部地区医師会の理事の先生方、医療関係者の皆様の力強い協力のおかげで、大成功に終わったことを心から感謝しています。

